

病院だより

心臓の悲鳴 (心不全とは)

臨床検査技師 宮部 健治

「心不全」という言葉を耳にしたことがあると思います。心臓が悪いとは想像がつくのですが…。心不全についてどのような状態なのか、どのような検査をしているのかを含め、ご紹介していきます。

心臓の働き

心臓は、その人の握りこぶしくらいの大きさで、血液を全身に送るため、収縮と拡張を繰り返しています。一分間の心拍数が70回とすると一日になんと十万回、約8トンもの血液を送り出すポンプの役割を果たして、一生休むことなく働き続けてくれている大切な臓器です。

血液の循環

肺で十分な酸素を取りこんだ血液は左心室から全身に送り出されます。全身をめぐる二酸化炭素を多く含んだ血液は右心房を経て右心室から肺へ送られ再び酸素を取り込みます。



心不全とその原因疾患

「心不全」とは病名ではなく、心臓のポンプ機能が低下して全身が必要とする血液を十分に送り出すことができなくなった状態を現しています。

原因の多くは狭心症・心筋梗塞・高血圧・心臓弁膜症などの病気があげられます。

心不全の症状

左心室から血液を送り出す働きが悪くなると、その手前に血液の停滞（これをうっ血といいます）が起こります。肺にうっ血が起きると酸素をうまく取り込めないため、呼吸困難の症状が起こります。

また、右心室の働きが悪くなると心臓へ戻る静脈にうっ血が起こるため足がむくんだり、おなかが張った感じや肝臓が腫れたりする症状が起こってきます。

心不全は重症になれば苦しくて寝ていることもできない状態になってしまいます。

心臓の悲鳴

心不全状態になり、心室が楽に動けなくなると心臓は自分の負担を減らそうとしてNT-ProBNP（N末端プロ脳性ナトリウム利尿ペプチド）というホルモンを分泌します。このホルモンの数値は心不全の程度をよく表しており、「心臓の悲鳴」といわれています。このホルモンは血管を拡張して血液の流れを良くし、うっ血として体にたまっている血液を尿として体外に出す働きをします。従って、このホルモンの数値が高ければ高いほど心臓の悲鳴が大きいという訳です。

この数値が正常な基準範囲内（60以下）にあればひと安心ですが、重症の場合には9,000以上にもなります。運動時の息切れ、足のむくみなどは心不全が進行して初めて感じるものですが、初期には症状がありません。この無症状の段階からでもNT-ProBNPは高くなり始めます。

心臓が気になるかたは主治医にこの検査を希望してみたいかたはどうか？

もちろん当院にもこの項目の測定装置（下図）があり、毎日のように測定を行っています。



住民基本台帳の閲覧状況の公表について

平成18年11月1日に住民基本台帳法の一部が改正され、個人情報の保護に十分留意した法律が施行されました。この改正により、誰でも閲覧を請求できるというこれまでの閲覧制度は廃止され、閲覧請求の制限が強化されました。

また、市町村には閲覧状況を公表することが義務付けられ、平成23年11月1日から平成24年10月31日までの閲覧状況は右のとおりとなっています。



件数	1
閲覧申出者の氏名 (法人の場合、名称・代表者氏名)	株式会社ビデオリサーチ 代表取締役 若杉 五馬
委託を受けて閲覧を行っている場合の委託者	日本たばこ産業株式会社
利用目的の概要	2012年 全国たばこ喫煙者率調査
閲覧の年月日	平成23年12月19日
閲覧に係る住民の範囲	字三笠 大正11年5月1日から平成4年4月30日生まれの男女